

# Quad Sup VSSのスーパーバイザの交換手順

## 内容

[概要](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[ネットワーク図](#)

[交換用スーパーバイザの準備](#)

[ケーブルの交換と新しいハイパーバイザの挿入](#)

[現在のケーブルの交換とスーパーバイザのコンソールポートへの接続](#)

[新しいスーパーバイザの起動時の動作の確認](#)

[現在のイメージの手動による起動](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

## 概要

このドキュメントでは、Quad-Sup720 または Quad-Sup2T で仮想スイッチング システム ( VSS ) モードで動作する Cisco Catalyst 6500 シリーズ スイッチのスーパーバイザ交換手順について説明します。このドキュメントを参照し、古いスーパーバイザのブート可能イメージを使用して新しいスーパーバイザを起動できます。これにより、交換用スーパーバイザを準備するためにスペアの 6500 シャーシを使用する必要がなくなります。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco VSS
- VSS アクティブ、スタンバイ、および VSS ICS ( シャーシ内スタンバイ )
- シスコの ROM モニタ モード ( ROMmon )

このドキュメントは、すべての VS-S2T-10G またはすべての VS-S720-10G スーパーバイザを使用していて、新しいスーパーバイザの準備にスペアのシャーシを使用できない場合に、現行の quad-sup VSS ペアで障害が発生した 1 台のスーパーバイザを交換するときに参照してください。

この手順を実行するには、コンソールから新しいスーパーバイザにアクセスできる必要があります。

す。このドキュメントでは、Sup720 の sup-bootdisk または Sup2T の bootdisk にあるイメージから起動するように、現行の VSS が設定されていることを前提としています。

## 使用するコンポーネント

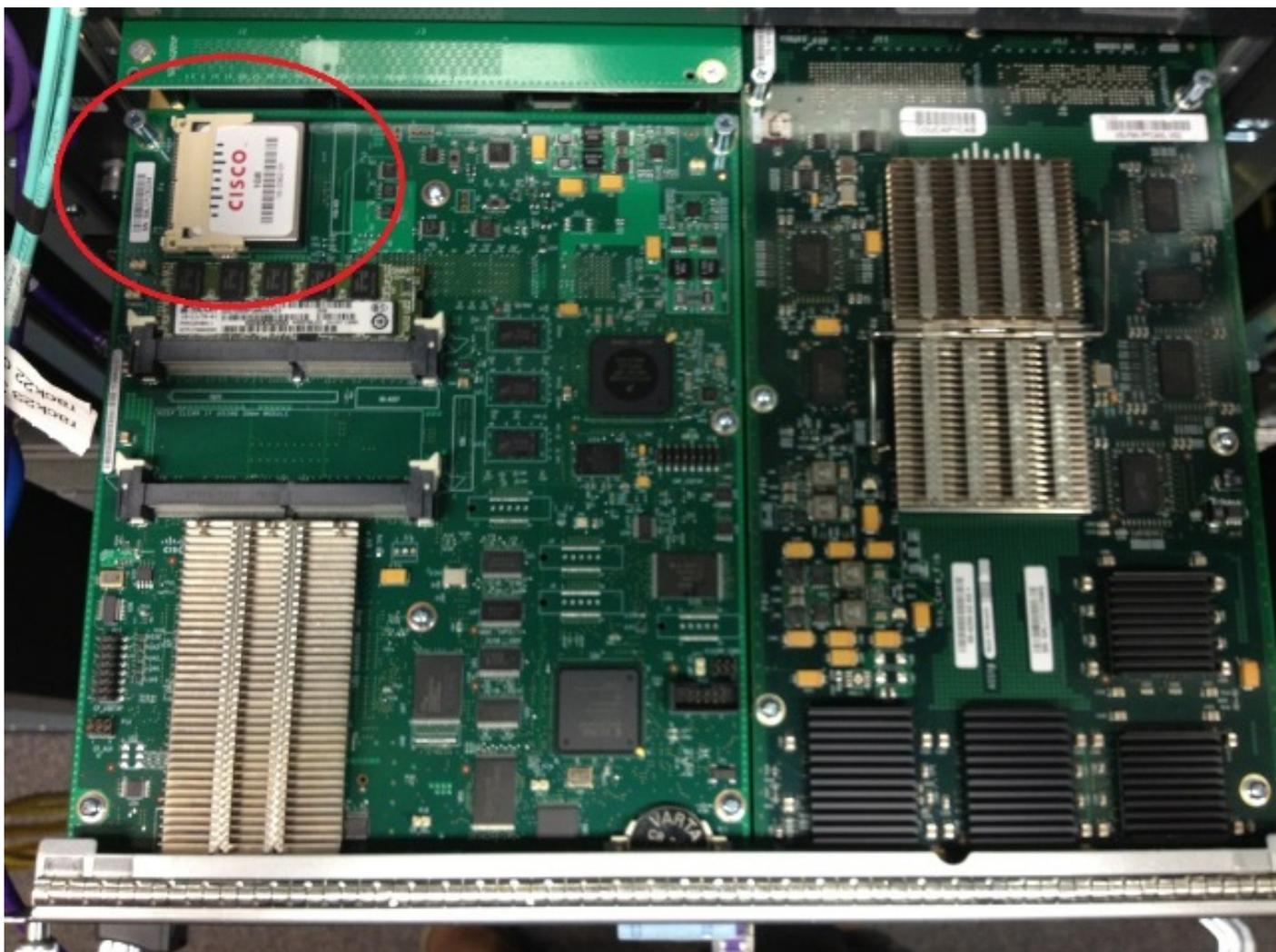
このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

## 設定

注：可能であればメンテナンス ウィンドウで以下の手順を実行することを推奨します。

## ネットワーク図



## 障害が発生したスーパーバイザの取り外し

1. 障害が発生したスーパーバイザに接続している現行ケーブルを特定してラベルを付け、ケーブルを取り外します。
2. 障害が発生したスーパーバイザを VSS から取り外し、bootdisk を特定します。bootdisk は、モジュール上部にある小型の Compact Flash ( CF ) カードです。
3. スーパーバイザを取り外すときに、スイッチから CF を取り外します。CF カードを別に保管しておきます。

## 交換用スーパーバイザの準備

1. 交換用スーパーバイザに使用する bootdisk が含まれている CF カードを取り外します。
2. 障害が発生したスーパーバイザの CF カードを、交換用スーパーバイザに挿入します。
3. 交換用スーパーバイザの CF カードを、障害が発生したスーパーバイザに挿入し、通常の返品許可 ( RMA ) プロセスを使用します。

## ケーブルの交換と新しいハイパーバイザの挿入

**注意：**スイッチで予期しない問題が発生することを防ぐため、この手順を行う前に、次の項の手順を読んで理解しておいてください。

## 現在のケーブルの交換とスーパーバイザのコンソールポートへの接続

1. 現在のケーブルを交換し、スーパーバイザのコンソールポートに接続します。
2. ケーブルとコンソールの接続が完了したら、新しいスーパーバイザをシャーシのスロットに完全に押し込み、スーパーバイザがコンソール接続経由で起動することを確認します。

## 新しいスーパーバイザの起動時の動作の確認

**注：**以前に設定されていたブートイメージが存在しない場合、交換用スーパーバイザは、最初のファイルシステムを起動するか、または ROMmon で起動することがあります。

現在の VSS 環境で稼働しているものとは異なるイメージがシステムにより起動される場合は、システムを ROMmon に切り替えるため、切り替え手順を使用する必要があります。最も一般的な切り替え手順は、**Ctrl + Alt + Pause/Break** を押すことです。その他の切り替え手順については、[『標準ブレイクシーケンス』](#)を参照してください。

```
=====  
System Bootstrap, Version 12.2(50r)SYS3, RELEASE SOFTWARE (fc1)  
Technical Support: http://www.cisco.com/techsupport  
Copyright (c) 2012 by cisco Systems, Inc.  
PYRAMID platform with 2097152 Kbytes of main memory
```

```
Autoboot: failed, BOOT string is empty  
Autoboot executing command: "boot "
```

```
bootdisk:%s72044-atafslib-m: Digitally Signed Release Software with key version A
```

```
Initializing ATA monitor library...
string is bootdisk:s2t54-adventerprisek9-mz.SPA.150-1.SY4.bin
```

```
bootdisk:%s72044-atafslib-m: Digitally Signed Release Software with key version A
```

```
Initializing ATA monitor library...
```

```
monitor: command "boot" aborted due to user interrupt
```

ROMmon に入ったら、取り外した CF カードのブート ディスクで正しいイメージを確認し、そのイメージを使用してシステムを起動します。

```
rommon 4 > dir bootdisk:
```

```
bootdisk:%s72044-atafslib-m: Digitally Signed Release Software with key version A
```

```
Initializing ATA monitor library...
Directory of bootdisk:
```

```
3 33554432 -rw- sea_console.dat
10217 33554432 -rw- sea_log.dat
7690 98145752 -rw- s2t54-advipservicesk9-mz.SPA.151-1.SY1
15754 0 drw- call-home
```

```
rommon 5 > boot bootdisk:s2t54-advipservicesk9-mz.SPA.151-1.SY1
```

```
bootdisk:%s72044-atafslib-m: Digitally Signed Release Software with key version A
```

```
Initializing ATA monitor library...
```

```
bootdisk:s2t54-advipservicesk9-mz.SPA.151-1.SY1: Digitally Signed Release Software
with key version A=====
```

新しいスーパーバイザが正しいイメージを起動した場合は、それ以降の操作は不要です。スーパーバイザが正しいイメージを起動しない場合は ROMmon に切り替え、次の手順に進みます。

スーパーバイザが正しくないイメージをロードし、ROMmon に切り替わらない場合は、スーパーバイザを物理的にリセットし、切り替え手順を再度実行します。

## 現在のイメージの手動による起動

1. **dir bootdisk:(dir sup-bootdisk: for Sup720)** コマンドを発行して、このスーパーバイザに移動された CF の内容をリストします。
2. 必要なイメージを特定したら、システムをこのイメージで起動し、**boot bootdisk:< image >** コマンドを使用します。スーパーバイザは起動を開始し、シャーシ内の現在のスーパーバイザを検出します。現在のスーパーバイザが検出されると、適切なスイッチ番号が自動的に設定され、新しいスーパーバイザがリセットされます。これにより新しいスイッチ番号が有効になります。

```
=====
*May 8 19:17:39.495: %PFREDUN-6-STANDBY: Initializing as STANDBY processor for this
switch
*May 8 19:17:39.959: %SYS-3-LOGGER_FLUSHED: System was paused for 00:00:00 to ensure
```

console debugging output.

```
*May 8 19:17:39.959: %PFINIT-6-ACTIVE_VS: Active supervisor is in virtual switch mode,  
but SWITCH_NUMBER rommon variable not set on the in-chassis standby.  
Setting SWITCH_NUMBER variable in rommon and resetting the in-chassis standby.
```

Resetting .....

=====

**注：**正しいイメージを起動するため、ROMmon に再度切り替えてこの手順を繰り返すことができる状態である必要があります。スイッチ番号だけが同期されます。ブート変数は同期されていないため、スイッチが正しくないイメージを再度ロードしようとする可能性があります。

## 確認

ここでは、設定が正常に機能しているかどうかを確認します。

ブート変数とコンフィギュレーションレジスタを確認します。システムが元のスーパーバイザを起動し、適切な変数をすべて同期したら、このコマンドを入力して、手順が完了したことを確認します。

- Show module switch all
- 新しいスーパーバイザが同じイメージを実行しており、CSSO で稼働していることを確認する
- Show bootvar

正常に完了した場合、すべてのスーパーバイザが起動し、同じバージョンのコードを実行します。ブート変数とスイッチ番号が完全に同期されるはずですが。

## トラブルシューティング

ここでは、設定のトラブルシューティングに使用できる情報を示します。

スーパーバイザで新しいイメージが起動せず、bootdisk が壊れているか、またはブート可能イメージがない場合は、必要なイメージが含まれているスペアの CF カードを disk0 に挿入し、この手順を繰り返します。新しいスーパーバイザを新しいイメージで実行するときには、bootdisk をフォーマットし、disk0 から必要なイメージをbootdisk にコピーします。